

パイプのけむ

なおかつ

パイプのけむり

パイプのけむりパイプのけ

團 伊玖磨

パイプのけむりパイプのけむりパイプのけむりパイプのけむりパイプ

朝日文庫



パイプの

なおかつパイプのけむり

朝日文庫

昭和61年1月20日 第1刷発行

定価380円

著 者 團 伊 玖 磨

発 行 者 川 口 信 行

印刷製本 凸版印刷株式会社

発 行 所 朝日新聞社

〒104 東京都中央区築地5-3-2

電話 03(545)0131 (代表)

編集=図書編集室 販売=出版販売部

振替 東京0-1730

© IKUMA DAN 1986 Printed in Japan

ISBN4-02-260033-0

なおかつパイプのけむり

團 伊玖磨

表紙・扉 伊藤 鑛治

目次

犬猿権	楽観主義	中二日	人種差別	礁湖	かにたま	水滴	A・H・Y	残像
11	15	19	32	36	41	45	49	54

セヴィリヤの春

草迷居

カバ

象を食った連中

再会

結解料理

露草

東西南北

前線

中一日

放鳥

群発地震

57

66

70

74

82

90

97

101

106

111

119

123

凌霄花

ちんちかちん

途中無停車

茄子

北廻り

優柔不断

絲瓜加持

心の中で

単数・複数

ライトニング・リッジへの道

改変

朝の音楽

187 180 173 169 165 160 153 148 144 137 133 129

瀬戸際	墓口	愚行	黒革表紙	小公園	タムパー	葉見ず・花見ず	マーチ王	+ 14	牛黄清心丸	とんぶり	殿中
-----	----	----	------	-----	------	---------	------	------	-------	------	----

253	249	241	238	234	229	224	218	213	209	201	195
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

春一番

南十字星

素人時代

時季遅れ

酔中・酔後

あとかぎ

281 277 273 269 264

なおかつパイプのけむり

『アサヒグラフ』昭和55年1月11日号

56年5月15日号連載

犬猿権

余り良い傾向とは思えないのだが、このところ、自分の心ばかりを相手にして暮らしている、詰まり創作ばかりをしているからなのだろう、心の外側に騒々しく展開している世の中に対して、えらく冷め切った気持ちになってしまっている。別に反社会的と言う程でも無いけれども、こうした傾向は、今の世の中の健康な思想から言えば良くない事だと思う。

商社が多国籍企業から金を取って政治家に献金したのが悪いの何のと騒いでいる。一体何を騒ぐのかと思う。商社は読んで字の如く金を儲けるだけが目的の会社という組織である。別に修身の先生でも聖者でも無かろう。儲けるためには何でもするのが仕事の彼等にとっては、金であれば、それが国民の税金であろうが、落ちていた金であろうが知った事では無いのだろう。ロマンも何もあったものでは無いのが当然である。政治家に献金する事が金儲けに有利ならば、当然献金も持ち掛けるだろう。受ける側の政治家が宜しく無いと言うなら、そんな金を受け取るような

粗悪な者を政治家として当選させた日本国民が粗悪だからだろう。騒ぐという天に唾する行為に耽る位ならば、もっと前に彼等の本質を何故見抜かないのかと思う。見れば判るじゃないか、と言いたくなる。

政治家と金の問題が跡を絶たず、その事を騒ぎ続けるけれども、こんな事は、政治家である事に金が掛かる現実と、分けても選挙に老大な金が掛かる仕組みを改善しない限り、跡を絶つ訳が無い。詰まり原因はもう一つ前にあるのだから、起こって来る個々の事件に目くじらを立てるよりは、仕組みの改善を急ぐ可きだと思う。

この頃は何事につけても、自分達の安全で快適な生活を守る権利を主張する事が恰も流行のよう盛んで、日本人独特の土地にべったりの感覚もそこに加わって、地域エゴとでも言うのか、住民主体の運動が強く、その事を否定はしないが、僕のように自分の住んでいる地域に興味は持っても、必要以上に地域に愛情を持たない人間には理解し難い事が多い。工場の隣りに住んで工場の煤煙に憤り、飛行場の近隣に住んで飛行機の騒音に憤る暇があったなら、僕ならさっさと何處かへ引越してしまうだろう。工場の操業や飛行機の発着は多くの人のために大切だと思うからである。こういう事を言うと、今の世の中ではすぐに叱られるのが常識になっているが、僕はそう思うのだから致し方無い。貴方は貴方、僕は僕。考えが違って、それで良いのである。

「嫌煙権運動」というものが起こって、その言葉を最初に聞いた時は、「犬猿権」と思い、いよ

いよ犬と猿も人並みの権利を主張し始めたのかと思つたが、そうではなくて、煙草が嫌いな人達が、煙草の煙を自分達の方に来ないようにと、街頭でデモなどを繰り拡げて騒いでいるのだと知つた。煙草は健康に悪く、灰で方々が汚れるし、火災の元にもなる。大体あの匂いが遣り切れぬ、というのがその反対の理由のようである。確かに煙草は健康に良くないと思う。然し、だからと言つて煙草を止めて、長生きをして、その人達は一体何をしようと言ふのだらう。僕自身は、煙草も喫いながら、人の役に立てる間だけは生きて九十か百になつてぼちぼち役に立たなくなつたら、さっさと死なせて貰いたいと思つている。煙草を止めて百五十迄生きてみても、後の五十年はぼんやりした儘人の世話になるのでは遣り切れぬ。身体に悪いなど、言い出せば、世の中の総べてのものは身体に悪い。塩でも、砂糖でも、酒でも、飯でも、仕事でも。それだからと言つて、塩や砂糖や酒や飯や仕事を嫌つて止めてしまう事は無茶だし、もう少し冷め切つて言えば、生きている事が一番身体に悪からう。灰で方々を汚すとか、火災の元になるとかは、人間の不注意が原因であつて、煙草に直接の責任は無い。

自分の事を考えてみる。若し僕が煙草を嫌いだったら、嫌煙権運動に身を投じるだらうか。恐らくそうはしないだらう。嫌いなら嫌いで、何處か隅の方で煙草を吸わないでいるだけだろうと思う。他人に關係を持つのが厭だからである。そして、好きな人は好きな人で、何處か隅の方で煙草を喫つていれば良いと思うだけだと思う。僕は飼ひ犬を嫌いだけれども「嫌犬権」などという、雉か何か主張しそうな団体などを作らうとは思わないし、煙草好きだからといって「愛煙

権」の団体を作つてデモを掛けようとも発想しない。大体そんな事をしてゐる暇は無い。

一九八〇年。二十世紀もいよいよあと二十一年になつた。この辺で日本人は少し落ち着いて、騒ぎ廻る事は適当に打ち切つて、物の本義、本質をじっくり見抜く眼力を養い、人それぞれが人それぞれの道を歩けるように心した方が良いのではないだろうか。

何と無く「犬猿権」——では無かつた、「嫌煙権」を主張する人達に批判がましい事を言つてしまつたが、その人達は、嫌いも嫌い、大嫌いな煙草の煙、ましてや普通の紙巻き煙草の煙より遙かに強烈な「パイプのけむり」を読む氣遣いは無い訳だから、お叱りや誤解がもとのお怒りの手紙が来るような事は無い筈だと安心してゐる。

樂觀主義
オプティミズム

暖冬だ、暖冬だと言って薄着で過ごしているうちに、そこは矢張り冬の事、ぼちぼちと本格的に寒い日が混じるようになった。今朝も、起き出すとすぐに猫額大の庭に出て深呼吸をした。曇っていた昨日の朝とは異って厳しい程の冷たい空気が肺腑にしみた。庭は猫の額だがその下には崖が続き、眼前には地球を感じさせる大ききで太平洋が広がっている。今日は典型的な冬の朝だ。大島が、天城山がくっきりと見える。箱根も、富士も、大山も、江之島も。

このところ、附近の人に手伝って貰って、家の下の崖に散歩用の小径を作っている。急斜面に土止めと土質改良のために八丈島から運んで植えた大葉夜叉五倍子と、九州の基山から運んだ総アカシアの小さかった苗が既に成長して木らしい木になって来たので、その間を縫う小径を付けて、小径に沿って山百合の球根を入れたり、木通や秋胡頹子のような雑木を植えている。数日前には書き物の合い間に逗子の町迄行って、植木商で蠟梅と杏と矮性の櫻桃と柿の苗を買い、一寸